12日　水曜

ヨハネ

12:1 さて、イエスは過越の祭りの六日前に
ベタニアに来られた。そこには、イエスが死
人の中からよみがえらせたラザロがいた。
12:2 人々はイエスのために、そこに夕食を用
意した。マルタは給仕し、ラザロは、イエス
とともに食卓に着いていた人たちの中にいた。
12:3 一方マリアは、純粋で非常に高価なナル
ドの香油を一リトラ取って、イエスの足に塗
り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油
の香りでいっぱいになった。
12:4 弟子の一人で、イエスを裏切ろうとして
いたイスカリオテのユダが言った。
12:5 「どうして、この香油を三百デナリで
売って、貧しい人々に施さなかったのか。」
12:6 彼がこう言ったのは、貧しい人々のこと
を心にかけていたからではなく、彼が盗人で、
金入れを預かりながら、そこに入っているも
のを盗んでいたからであった。
12:7 イエスは言われた。「そのままさせてお
きなさい。マリアは、わたしの葬りの日のた
めに、それを取っておいたのです。
12:8 貧しい人々は、いつもあなたがたと一緒
にいますが、わたしはいつも一緒にいるわけ
ではありません。」
12:9 すると、大勢のユダヤ人の群衆が、そこ
にイエスがおられると知って、やって来た。
イエスに会うためだけではなく、イエスが死
人の中からよみがえらせたラザロを見るため
でもあった。
12:10 祭司長たちはラザロも殺そうと相談し
た。
12:11 彼のために多くのユダヤ人が去って行
き、イエスを信じるようになったからである。

Bible Reference
聖書の記述

ユダには会計の才能がありましたが、それが誘惑にもなりました。人はときに、その才能が誘惑にもなりますから、気をつけなくてはなりません。特にユダは、お金を預かっていましたが、会計係りを自分の目的でやっていましたから、結局「盗む」ようになってしまったのです。

彼は自分の悪を隠すために、善行を願っているようなことを言ったのでしょう。しかしそれは偽善であったので、肝心なイエス様への愛が抜けてしまっていました。ですからマリアの愛の行為がわからなかってのです。

マリアはイエス様への純粋な愛から、出来る限りのことをしました。そのような行動はときには反対にあうこともありますが、ひるむ必要はありません。主はその思いを知ってくださって、喜びまたほめてくだいます。敵をも愛するイエス様を愛してこそ、本当の意味で人を愛することができるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？